# 美方高校新聞

発行所
福井県立美方高等学校
新　聞　部
編集責任者
新　聞　部
印刷所
〈有〉鳥居印刷所


**三月二日、第五十二回美方高校卒業式が挙行され、一四二名の卒業生が学び舎を巣立つ。卒業生は高校生活三年間をコロナ禍の中で過ごし、学校行事では制限のかかったものが多かった。そんな中でも美高祭ではリーダーシップを発揮し、部活動ではたくさんの活躍を見せてくれた。頼もしくかっこいい三年生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。**

# 第52回美方高校卒業証書授与式
# 惜別そして新しい舞台へ

卒業生の進路状況は国公立大学八名、私立大学三九名、私立短期大学九名、専門学校四二名、就職二六名、公務員一名となっている（二月二十日現在）。また、卒業式に先立ち三年間で輝かしい成果を上げた生徒が表彰された。

〈三か年皆勤〉五十七名

〈スポーツ・文化・学術の部〉

○ボート部
中村彩香・岸本智樹・柴崎峻佑・上村柚子・岡部清華・鴇田彩桜

○かるた部
山田悠華・千田椎菜

○文化・学術
北村侑希乃

〈財団法人全国産業教育振興中央会優良卒業生〉
生活情報科　上田佑季奈

〈県産業教育振興会優良卒業生〉
食物科　吉本星菜

〈全国高等学校家庭科技術検定成績優秀者〉
食物科　北村侑希乃・江戸愛華
生活情報科　中島佑唯

〈福井フィーチャーマイスタートップ賞〉
生活情報科　坂口冬華・中道菜々

〈全国商業高等学校協会成績優良者〉
生活情報科　上田佑季奈

【受賞者インタビュー】

▽ボート部　鴇田彩桜さん
コロナ禍で活動制限がある時も、仲間たちと切磋琢磨し成長できたからこそ大会で結果を残すことができました。大学でも上を目指し努力していきます。

▽上田佑季奈さん
考査と検定の両立はとても大変でしたが、強い意志を持つことで成長につながりました。今後も自分に負けないよう勉学に励みたいです。

▽吉本星菜さん
三年間、普段の実習から検定を意識して取り組むことで、技術と知識を身につけて合格することができました。食物科で学んだことを生かし、人に寄り添えるスポーツ栄養士になれるよう頑張ります。

三年生の卒業にあたり、各ホームの委員長と担任の先生からのメッセージを紹介する。

**委員長からメッセージ**
**①ホームの思い出**
**②担任・副担任へ**

## 一ホーム

ホーム委員長より
①三年生になり、教室が受験生の雰囲気になる中で、日々の何気ない会話が一番の思い出になりました。
②これまでお世話になりました。田中先生のお陰で学級が楽かったし、木村先生のお陰で「三日前理論」を知ることができました。
田中涼太郎先生より
個性豊かで素直で賢く優しいホーム。共に学校生活を歩めたことを誇りに思います。ありがとう。三―一最高！

## 二ホーム

ホーム委員長より
①今年は最後の美高祭がありました。黄組のパワーで総合優勝することができて最高の思い出になりました。
②先生との何気ない会話楽しかったです。今まで私たちをいつも見守ってくださってありがとうございました。
東山裕紀先生より
制約の多い中での三年間でしたが、一年ずつ許容範囲が広がり、できる喜びを味わってきました。共に成長できてみんなに感謝することばかりです。ありがとう！

## 三ホーム

ホーム委員長より
①ＬＴでドッジボールをした時、城戸先生が誰よりも全力で楽しんでいたことが印象強いです。あの時の先生は過去イチ爽やかでした。
②手間のかかる子どもたちのお世話ありがとうございました。二人の先生がいてくださったお陰で日常生活がとても楽しかったです。スキ。
城戸秀紀先生より
卒業おめでとう。四月より新しい環境で生活すると思いますが、まずは命を大事に。そして、自ら進むべき道を切り拓いていって下さい。

## 四ホーム

ホーム委員長より
①コロナ禍で制限されることばかりでしたが、学校祭はホームの絆を感じた瞬間でした。自分たちが作り上げたものが多くの人に評価され達成感を味わうことができました。
②堀田先生と長塚先生には進路のことや学校のこと、家のことまで相談に乗っていただき、感謝してもしきれません。
堀田恵里先生より
毎朝、返してもらえなかった「おはよう」の挨拶。悲しかったけれど、そんな日常さえなくなると思うと寂しいな。

## 五ホーム

ホーム委員長より
①思い出は國分先生の誕生日会です。先生はすごく泣いてくれて私たちも涙を流してしまったからです。
②國分先生は三年間、堀川先生は一年間ありがとうございました。一つだけ心残りなことはホーム遊びの時に先生たちは見るだけだったことです。最後にみんなで遊びましょう。
國分和代先生より
制限が多い中、できることを一生懸命に取り組み、大きく成長しました。新しい場所で大きく羽ばたいてください。

## 地域のより良い未来を創るために
## 「私たちの未来」探究最終発表

二月四日、二年生の探究最終発表会が行われた。今回は地域の方にも聞いてもらおうと若狭町レピアでの開催となった。地元中学生と保護者、来賓、買い物途中に立ち寄る方などで会場は賑わっていた。

**【口頭発表①】**『こどもと親を支える地域作りのために』

梨に関するクイズに答える聴衆

福井県は共働き率が高いことから、家事育児の担い方に課題があることに着目。公民館を子ども達のための「子ども広場」として活用し、ボランティアの高校生や高齢者が子ども達と関わることで育児負担軽減と地域の繋がりを実現できると提案した。美浜町副町長は「誰でも気軽に利用できる子ども広場に地域の公民館を使うことは現実的なアイデアだ」と評価した。

**【口頭発表②】**『梨ＦＥＳ食品ＬＯＳＳ』
昨年度の先輩の探究を受け継いだ内容。まずは三種類（幸水・豊水・二十世紀）の特徴をつかみ、飲食店のアドバイスを得ながら、若狭牛に合う梨ソースを考案した。また十村駅で規格外梨を利用した「梨ＦＥＳ」の開催を提案。更に、今年度十村駅でカフェ運営の実績がある本校食物科とのコラボなど自由な発想を展開した。

身振り手振りで説明

若狭町長は「若狭牛と梨のコラボは面白い。自らが主体となり行動しフェスを実現してほしい」と後押しした。

**【ポスター発表】**三十八組一二〇人がＳＤＧｓに関連したテーマで発表した。
「端切れを子ども服やペット服へ」「男性看護師を増やすために」「私たちの地域の曲を作ろう」など様々な視点から探究の成果を発表し、聴衆からの質問にも真剣に答えていた。

「三方五湖のフナで調理しよう」をテーマにした班は、大量に余ったフナのアラの活用法について探究した。一般社団法人ＳｗｉｔｃｈＳｗｉｔｃｈや地元漁師から提供されたアラを用い、臭みを消す方法を試行錯誤して出汁をとり、炊き込みごはんを完成させた。この班の探究は今後一年生が受け継ぎ進展させる計画だ。
参加した中学生は「具体的で分かりやすかった」「自分たちの探究の参考になった」と感想を語った。

## 泉ン原

日本を象徴する花「桜」。桜は一年をかけ花を咲かせる準備をするが、いざ開花すると二週間程で散ってしまうなんとも儚い植物だ。それでも昔から和歌に多く登場するほど愛されてきた▼現代でも人気があり、この季節になると桜柄の日用品や桜味のお菓子、桜の香りの化粧品なども発売され、実物のみならず様々な桜グッズを楽しめるのも魅力▼身近なところでいえば学校というイメージがある。なぜ学校には桜の木が多く植えられているのだろうか。一大イベント、卒業式や入学式に合わせてという意味もあるが、その昔は桜を通して軍人精神を子どもに教え込むために植えられたとの説もある。命を惜しまず勇敢に潔く散る日本軍人と桜を重ね合わせたそうだ。意外と悲しい意味が込められていた▼学校の桜も街中の桜も日本ならでは。桜を愛で、今年の桜シーズンも様々な方法で楽しんでみたい。

## 柿本先生 中川先生 ご退職記念インタビュー
## 教員生活の一端を尋ねる

**柿本隆哉先生と中川実先生が本年度をもって退職されます。お二人にこれまでの思い出などをお聞きしました。**

仲の良いお二人

「どこに座ればよかったかのう…」腰の曲がったおじいちゃん歩きで柿本先生が登場。「もう～やめなさいよ～困ってるでしょ」ツッコミながら中川先生も登場。お二人は高校（若狭高）の同級生で気の置けない仲だという。場所は図書室、国語教師のお二人にマッチしているのではないだろうか。お二人に席についてもらい談話会が始まった。

**五**「本校に何年お勤めですか」
**中**「私は十四年」
**柿**「僕は十三年です」
退職前の十数年を二人の同級生が同じ場所で勤務したのは不思議な縁を感じる。
**五**「なぜ国語教師に？当時将来について話し合う機会でもあったのでしょうか」
**中**「おおっ！」（驚き笑い？）
**柿**「いや、いや、そういうことは別にないですけど、僕は高校までは結構本を読んでいて将来はなにでご飯を食べていこうかなと考えた時、国語の教員かなと思って」
**中**「大学で古典文学の先生に出会ったんですね。その先生のことが人間的に好きになって講義を受けてるうちに、国語教師っていいなと思いはじめて教員免許を取りました」
**五**「国語という教科の特色は」
**中**「国語ってとらえどころのない教科でいっぱい教えることがあるんですけど、他教科と違って一言で表すのは難しいと思ってます」
**柿**「国語は一時間一時間うすーい紙を重ねていくイメージ。短期間で何かできるようになったって示すことは難しいけど、自分の言語の力を積み重ねていくものやと思ってます」
話題はお二人の高校時代に。お互いの印象について。
**柿**「まじめな男」
**中**「やかましいけど頭のいいやつやと思ってました。授業中も積極的に発言していたし」
**柿**「黙っていられない性分ですから」（一同　笑笑）
**中**「私はあれが好きだったな、ホームキャンプ」
**柿**「あー確かに。三十五ホームそれぞれに行き先を決めて、テントや飯盒を持って行って一日過ごすんやな」
**中**「学校祭とか水泳大会、全部ホームで参加したのよ」
当時の若狭高校は学年・学科混同の「縦割りホーム制」をとっていたという。その後は美高生について話が進む。
**柿**「美高生の皆は、行事に関しても勉強も部活動もすごく頑張ってると思うんです」
**中**「素朴だし人間味がある生徒が集まってるなと思う。そんな生徒の人柄もあって私も長くここにいたと思う」
**柿**「生徒が皆で一生懸命、思いやりを持ってやってるから」

和やかに進むインタビュー

**中**「先生方も協力し合う雰囲気があって教員としては長くいたいと思わせる学校かな」
**五**「卒業式がリモートになることや校歌を歌えないことに思うことはありますか」
**柿**「本当は全員で卒業式をしてあげたい。校歌は同じ学校を卒業したっていうアイデンティティを確認する一つの縁なんやけど、それができないのは淋しいことなんですね」
**中**「私は体育祭の最後に全校生徒が肩組んで校歌を歌っている光景が好きやったね」
本来の学校生活を取り戻すために、密で温かな人と人との関係を忘れるわけにはいかない。最後は卒業生へのお言葉をいただいた。
**柿**「美高生の人柄は温かくていい雰囲気を作ってるんですよ。自分たちは幸せな環境にいたんやってことを覚えていてほしいな。学校の価値は生徒で決まるんです。だから美方高校は価値があるんです」
**中**「いい人と出会うことがその人の生活を豊かにしてくれると思います。でも、いい人に出会うには…一生懸命やっていきなさい。出会った人が助けてくれて、また自分が豊かになって成長できる。私もそうだったから」
お二人の経験と実感のこもったお言葉に、取材中うなずくことしきりの記者であった。

（続きは番外編で）